

質実剛健の宝剣岳から麗しの空木岳への縦走

斉藤 整紀

- 2017年9月9日(土)～11日(月)
- メンバー 松田(C.L)・村山・斉藤整紀
- 日程 9日 所沢(車)6:30⇒飯田山本 IC⇒満蒙開拓平和記念館(見学)⇒菅ノ台 BT(昼食)
14:45(バス)⇒しらび平駅(0-プ)⇒千畳敷駅 15:30→16:30 宝剣山荘(泊)
- 10日 宝剣山荘6:00→宝剣岳 2931m 6:40→極楽平 7:00→濁沢大峰→檜尾岳 10:00→大瀧山→熊沢岳 12:00→東川岳 13:45～14:20→14:40 木曾殿山荘(泊)
- 11日 木曾殿山荘 5:40→空木岳 2863m 7:00→駒峰ヒュッテ→駒岩→大地獄・小地獄→マセナギ 10:20→池山小屋→11:45 林道終点(タクシー)⇒菅ノ台 BC(車)12:40⇒こぶしの湯(入浴・昼食)14:30(車)⇒17:00 八王子駅

9月9日(土) 満蒙見学～宝剣山荘 晴れ/曇
村山氏と葛西駅朝1番の電車で所沢に出かけ、松田氏の車で圏央道、中央道と進むが、久しぶりの週末好天予報の所為か、高速は混んでいる。満蒙平和記念館に昼近くに入館、戦争の恐ろしさと、無責任な国策に翻弄された日中や周辺国の多くの人々の運命にやるせなさを感じた。

次に、菅ノ平バスセンター駐車場に車を入れて、遅い昼食後、しらび平駅行バスに乗り込んだ。午後の遅い時間のお蔭か、バスもロープウェイも順調に進んだ。千畳敷カールにガスが流れる中、南ア連峰を眺めながら、千畳敷駅から1時間程で、乗越浄土へ上り、宝剣山荘に入った。団体を含め、ほぼ定員の人数で、1部屋いっぱいの5人。

9月10日(日) 宝剣岳～木曾殿山荘 曇り/晴
朝方の天気は冴えない。冷たい水分を含んだガスと北風が襲う。基本的には晴れの予報であり、上だけゴアテックスを着て出発。久しぶりの宝剣岳は残念ながら眺望なし。山頂の大岩の前で記念

写真を撮って、極楽平方面へ下山。

さらに極楽平から島田娘を越え、濁沢大峰へ向けて、左側に回って、どんどん下った辺りから、これから目指す木曾殿山荘までの道のりの険しさが予測できた。今まで何度も歩いた乗越浄土から中岳を通過して木曾駒へ迎る緩やかで短い尾根径とは全く違い、一山一山がしっかりと花崗岩の岩稜をまとって、たっぷりの歩程を持って聳えているのだ。ここは、じっくり楽しむべし!

朝方の湿ったガスも檜尾岳への上りの途中から掻き消え、展望も回復した。振り返ると先程の宝剣の岩稜が天に突き出て、左奥の駒ヶ岳のたおやかな尾根が朝日に輝く。



西側に並行していた三ノ沢岳が迫力のある山容を現した。南前方に潇洒な避難小屋を山頂近くの尾根に乗せた檜尾岳が迫る。山頂に着くと、360度の展望の素晴らしさに感嘆!「山が大きい!」



来し方を振り返り、改めて、宝剣方面を確認。前は、南方の空木岳が端正な姿を現す。これも見事!また檜尾尾根の避難小屋方向の先には甲斐駒、北岳などが目に付く。何ともスケールの大き

なアルプスならではのパンoramaよ！

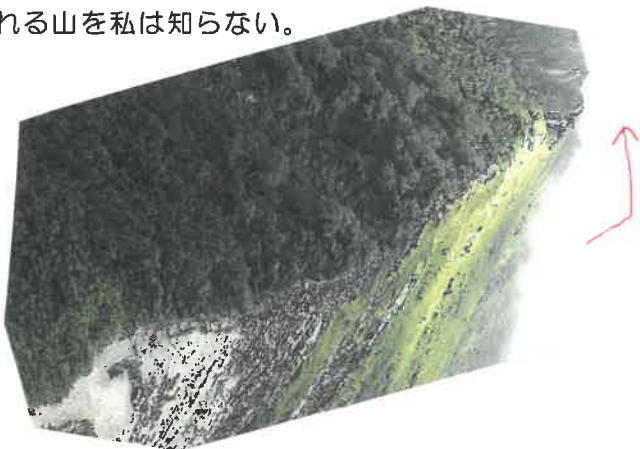
次に控える熊沢岳の大岩を重ねた山頂が望め、期待できる。どの山も花崗岩の岩稜を備えているが、そこは傑出して個性的である。また高さもあり、フィットネス的にも歩き甲斐がありそう！

歩程半分と言われる檜尾岳から、後半部分を眺めると、熊沢岳の山頂部を除くと、全般に緩やかに見え、前半よりも楽に見える。しかし実際はさにあらず、同レベルの厳しさ、面白さが続いた。最後のピーク東川岳に着くまでが長かった！

午後2時前、ようやく東川岳に着き、休んでいると、何組かのパーティがやって来て知り合えた。あとは、ここを下って、今夜の山小屋入りという、気楽さから、空木山頂のシャッターチャンスを粘り、結局30分以上休憩した。



小屋へ下る途中、明日の登山道がはっきり見えた。真っ直ぐに伸びた分水嶺をなぞるように、一直線に登山道が引かれている。地図からでは想像できないものである。こんなに見事な直線が引かれる山を私は知らない。



鞍部に建つ「木曾義仲乗り越えの地」と書かれた木曾殿山荘は、やはり混んでいて、大広間一杯に広がって寝た。布団が極薄で背中が痛い。

9月11日(月) 山荘～空木岳～池山尾根 曇り

夜中は月も出ていたが、朝から曇りで風もある。山荘から登って、空木山頂を経て、池山コースを下りるルートの概要は小屋の主から聞くことが出来たため、慎重に歩を進めた。

まず小屋からの上り径は、東川岳から眺めた様には真っ直ぐではなく、小さなジグザグとアンジュレーションのある普通の山道である。立上りの急登の入りが速い！よほどブレーキをかけようかとも思ったが、後続部隊も速く、しかたなくそのまま行った。第一峰まで登り切ると、ガスに覆われた。第二峰から頂上の第三峰へは岩の間を抜けると難なく頂上に到着。360度の展望のはずが、厚く雲で覆われ、むなしくも、ゆっくり下りるしかない。小雨が混じり始め、頂上直下の駒峰ヒュッテは小さな避難小屋ながら、こざっぱりと片付いていた。途中、駒石など花崗岩の大岩が道端にいくつか見られた。時々、空は明るくなるものの展望が得られるレベルではない。やがて樹林帯に入り、暫くアップダウンを繰り返した後、痩せ尾根の危険表示があり、大地獄、小地獄の梯子や鎖場を過ぎると、良く整備された歩き易い道に変わる。少し長いが、楽しい散歩である。

途中で知り合った田中氏を加え4人は、林道終点で予約のタクシーに乗り、車を止めた菅の台BCに戻り、少し離れたマイナーな「こぶしの湯」に浸かった。入浴ですっきりした後は、地場B級グルメの「ソースかつ丼」を食べて帰った。道路は、月曜日のこと、空いており、村山氏と二人、17時に八王子駅に降ろしてもらった。

今回、既に経験のある山ながら企画、更には運転して戴いた松田氏に感謝したい。また松田氏ならではの企画・満蒙記念館も勉強になった。

極楽平から木曾殿山荘までの連山越えルートは、予想を上回る充実の歩程であった。特に、晴渡った檜尾岳の展望は印象に残った。

一方、空木岳は、その山容同様、真っ直ぐに見える上り径の美しさは他に類を見ない。また登山道も整備され、楽しい山行であった。只一つの心残りは山頂風景が得られなかったことであった。